



安全・安楽な移乗介助に関する研究

保健福祉学部 看護学科

講師 三宅 由希子 (みやけ ゆきこ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3508 号室
 Tel 0848-60-1120(代表)
 E-mail miyake@pu-hiroshima.ac.jp
 *@は半角に置き換えてください

専門分野： 基礎看護学

キーワード： 移乗介助、基礎看護教育

● 主な取り組み・活動

*看護・介護の現場では、介助者の約8割が腰痛を抱えていると指摘されています。その課題を受けて、これまでの私たちの主な取り組みとして、患者を持ち上げない、人の自然な動きに近い概念を用いた体位変換・移乗の有効性を検討してきました。また、厚生労働省からは「腰痛予防対策指針」が改正され、ベッドから車いすに移すなどの「移乗介助」の際には、人力での抱き上げを行わないこと、リフトやスタンディングマシーンといった福祉機器を積極的に活用することが明記されています。しかし、我が国の臨床現場での福祉機器の普及率は低い現状にあります。これまで福祉機器の活用による介助者の腰痛軽減に関する研究は多く見られていますが、被介護者に関するメリットを示した研究は少ない現状にあります。移乗介助に福祉機器を活用することによる被介護者のメリットを明らかにし、介助者、被介護者双方にとって安全・安楽な移乗介助方法を探索していきたいと思っています。

*離床を促す有効な福祉用具として車椅子が位置づけられ、車椅子の導入により自力移動の難しい被介護者もベッドから離床でき、日常生活動作(ADL)の向上のみならず、生活の質(QOL)の向上につながるという考え方が定着してきています。車椅子利用者の身体機能や形態に合わせて調整できるモジュラー型車椅子、座位姿勢を補助するクッションも多く存在しています。しかし、車椅子シーティングの視点や知識、技術を有する保健医

療従事者が十分に育成されていない現状にあると考えられます。車椅子シーティングは、原理原則を理解するだけでは実践することが難しい技術なため、事例を通じた具体的な車椅子シーティングの教材開発を行っています。

*本学近隣地区の保健福祉医療従事者が定期的に集まり、人の動きに関する研修会を行っています。移乗介助やポジショニングに関する知識、技術の交流と親睦を図り、その成果の普及に励んでいます。

● 今後の目標・抱負

*疼痛軽減、転倒予防に向けた移乗介助方法を探索したいと考えています。

*これまでの研究結果をふまえて、臨床現場における福祉用具の普及を検討していきます。

*看護基礎教育において、学生のコミュニケーション能力を向上させる効果的な教育方法について検討していきたいと思っています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

*被介護者の視点からの安全・安楽な移乗方法を検討し、臨床現場に活用できる体制づくりを行いたいと思っています。

*保健福祉医療従事者の新人教育や現職者研修に活用していきたいと考えています。

● これまでの連携事例・実績

*本学近隣地区の保健福祉医療従事者が2ヶ月に1回のペースで集まり、人の動きに関する研修会を行っています。今後も引き続き、移乗介助やポジショニング、福祉用具に関する研修会を行う予定です。